

# 「公益財団法人 JFE21 世紀財団」2016 年度 技術研究助成 募集要項

## 1. 助成対象となる研究

**鉄鋼技術研究**：鉄鋼材料、鉄鋼製造プロセス及び副産物の有効利用を対象とする基礎、応用技術の研究。鉄鋼に関係する計測・制御・分析等の関連技術の研究を含む。

**地球環境・地球温暖化防止技術研究**：地球環境保全と地球温暖化防止を目的とした技術開発を対象とするエンジニアリング（工学）に関係する基礎、応用技術の研究。

\* いずれも別紙の研究分野分類表のいずれかの分類に該当した研究テーマのみ受け付ける。

\* 実質的に既に完了している研究や、特定の機関からの委託研究は対象外とする。

\* 助成を受けた研究は成果も含めて公開を前提とする。（本財団にて助成研究報告書を発行、本財団 HP で公開）また、研究成果がもたらす工業所有権等の知的財産権については、本財団は関与しない。

## 2. 助成件数と助成金額

25 件（原則） （200 万円/件）	鉄鋼技術研究	13±3 件
	地球環境・地球温暖化防止技術研究	13±3 件

\* 助成金は代表研究者の所属する大学・研究機関に交付（指定銀行口座に 16 年 12 月に振込）

\* 助成金の用途は、設備・備品費、学会・調査旅費、研究補助者謝金、参考書籍・文書購入費等で、研究室運営費、学会等開催費、論文印刷・書籍刊行費などは不可とする。

## 3. 研究期間 原則 1 年間（2017 年 1 月研究開始・同年 12 月終了・2018 年 1 月報告書提出）

但し、2 年間で上限として延期・延長を可とする（その場合 2019 年 1 月報告書提出）

## 4. 応募資格

日本の国公立大学または公的研究機関に勤務（常勤）する研究者であって国籍は問わない。なおグループでの研究の場合、代表研究者以外の共同研究者は 3 名以内で、大学院生および外国の大学、日本の他の大学や公的研究機関に所属する研究者も可とする。2013～2015 年度の本研究助成を代表研究者として受領した者は、代表研究者としての応募はできない。

## 5. 申請の手続き

本財団ホームページ（HP）の申請様式に記入し、Email で事務局に送信

財団 HP：<http://www.jfe-21st-cf.or.jp/>、受付開始：4 月 27 日（水）締切：6 月 24 日（金）

\* 記入と送信の要領は申請様式に掲載、ペーパーレス申請につき郵送は不可とする。

## 6. 審査・選考と助成研究（者）の公表

本財団委嘱の審査委員による審査・選考を経て、本財団理事長が決定し、9 月末に応募者に結果を通知の後、本財団 HP 等で公表する。

審査委員会 委員長 丹村 洋一（JFE スチール株代表取締役副社長）

委員 大学教授、エンジニア等専門家 1 2 名（委員の氏名は非公表）

## 7. 助成受領研究者の義務と条件等

(1) 助成受領者は、本財団と「技術研究助成覚書」を交換

(2) 助成金の受領手続き（本財団所定の寄付申請書により大学・研究機関事務部に手続きを依頼）

(3) 贈呈式への代表研究者の出席（東京において 12 月上旬予定、出席費用は本財団負担）

(4) 研究終了後、研究成果報告書（公開前提）と会計報告書を提出

(5) 研究論文等において本財団から助成があった旨を記載すること。

以上

## 【別紙】

## 技術研究助成の対象とする研究分野分類表

\* 応募申込画面の「研究分類」で、上記の小分類のいずれかを選択して下さい。

区分	大分類	小分類	
鉄鋼	鉄鋼製造プロセス	鉄プ - 1	製鉄プロセス・設備
		鉄プ - 2	製鋼プロセス・設備、鉄化合物製造、凝固
		鉄プ - 3	鉄鋼関連プロセスの排出物減量化、排出物再資源化
	鉄鋼材料	鉄材 - 1	組織(相、粒界、析出、拡散)
		鉄材 - 2	材料設計(複合・焼結材料・ナノ)、合金
		鉄材 - 3	強度、疲労・破壊、材料評価
		鉄材 - 4	腐食・防食、電気化学、表面処理、コーティング
	鉄鋼関連技術	鉄関 - 1	計測・制御技術、冷却モデル、流れ
		鉄関 - 2	分析(組成、表面)技術、評価・試験、検査、生体
		鉄関 - 3	接合・加工・成形技術、潤滑(トライボロジー)、磁気浮上
		鉄関 - 4	鋼構造(設計、試験、工法)、構造解析、建築
	地球環境・地球温暖化防止	地球環境保全	環境 - 1
環境 - 2			廃棄物処理、再資源化、リサイクル、金属回収
環境 - 3			土壌浄化、環境汚染物質(大気)回収、土壌・大気等無害化の分析・計測、放射性廃棄物処理
地球温暖化防止		温暖 - 1	CO <sub>2</sub> 等温室効果ガス回収・固定、ヒートアイランド
		温暖 - 2	省エネ、排熱利用、燃焼(燃料)熱機関、空調、ヒートポンプ
		温暖 - 3	燃料電池、蓄電池、水素製造
		温暖 - 4	再生可能エネルギー(太陽光、風力、地熱、バイオマス)、スマートグリッド、エネルギーフロー